

外科（外科・消化器外科、呼吸器外科、小児外科）

概要

外科・消化器外科

疾患別概要

当科では主に下記の疾患について診療を行っています。

胃がん

ガイドラインに沿って積極的に腹腔鏡手術を行っており、今年は約半数が腹腔鏡手術で治療を行いました。術前・術後補助化学療法、進行・再発胃がんに対する化学療法も全例が当科医師により行われており、切れ目のない一貫した治療が可能となっています。

大腸がん

ほぼ全例を腹腔鏡下手術で行っています。腹腔鏡下手術には、傷が小さく術後の回復が早いこと、カメラによる拡大視効果で繊細な手術が行えるという利点があります。人工肛門が必要となるような進行直腸がんに対しては積極的に術前抗がん剤治療を行っており、その結果、がんが小さくなり人工肛門を回避できる場合もあります。肝転移や肺転移に対しても積極的に切除を行うことで、治癒や予後延長を目指しています。

乳がん

乳がんの治療では外科的切除はもちろん、術後の内分泌化学療法が重要となります。早期がんを中心にセンチネルリンパ節生検を用いた腋窩リンパ節郭清の省略や、乳房温存手術も積極的に行っています。

進行がんに対しても、術前化学療法を行うことでがんが縮小し、乳房温存手術が可能となる症例が増えています。また、マンモグラフィ撮影装置を利用した検診を行い、乳がんの早期発見に努めています。

肝胆膵がん

肝臓がんの治療には手術による切除はもちろんのこと、経皮的ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法、抗がん剤治療などがあり、がんの進行度や肝臓の状態により、最適な治療が選択されます。当科ではこれら全ての治療を行っており、再発が稀ではない肝臓がんにおいても、患者さまの状況に応じて様々な治療法を組み合わせ、できるだけ元気で長生きしていただけることを心がけて診療しています。

胆道がん、膵がんは消化器がんのなかでも手術難易度の高いがんですが、日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能専門医を中心に、安全で確実な手術を心がけて診療しています。

進行した状態で発見され切除不能な場合も多いですが、積極的に抗がん剤治療を行い、予後延長を目指しています。特に膵がんにおいては、抗がん剤治療によりがんが縮小し、手術が可能となった症例も少なからず経験しています。肝胆膵がんにおいても、適応可能な症例に対しては積極的に腹腔鏡下手術を行っており、今年は半数弱が腹腔鏡で行われました。

胆道疾患

胆嚢結石症や胆嚢炎に対する胆嚢摘出術は、全例腹腔鏡で行っています。急性胆嚢炎に対する経皮的胆嚢ドレナージ、急性胆管炎に対する内視鏡的胆道ドレナージも全例外科医が担当しています。

鼠径ヘルニア

いわゆる「脱腸」と呼ばれる疾患で、治療法は手術のみです。いくつかの手術法がありますが、現在当科では、再発率が非常に低いクーゲルパッチというメッシュを用いた手術を行っています。

当科の特徴

当院は救命センター、救急センター、化学療法センター、緩和ケア病棟を有していますが、それらの運営には外科医師が中心的役割を担うかたちで携わっています。そのため、がん診療においては、手術のみならず、急病時の診療、進行・再発がんに対する抗がん剤治療、終末期における緩和医療まで一貫して対応可能です。患者さまにとって安全で質の高い外科診療を目指し、日夜、研鑽と教育に励んでいます。

呼吸器外科

呼吸器外科では胸部悪性疾患（原発性肺がん、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸膜腫瘍等）、良性疾患（気胸、肺嚢胞症等）を呼吸器腫瘍センター、感染性疾患の治療を呼吸器・感染症外来で行っています。

令和4年の全手術症例数は94例、原発性肺がん手術症例数は45例と前年と比較し増加しました。令和3年は新型コロナウイルス感染症による診療制限と受診控えで症例数が減少していましたが、令和4年は新型コロナウイルス感染状況が日常化し、受診される患者数が増加したことが要因と考えられます。肺がん治療においては感染症の流行状況に関わらず、診療方針は病状に応じた最善の治療を提供することを心がけています。

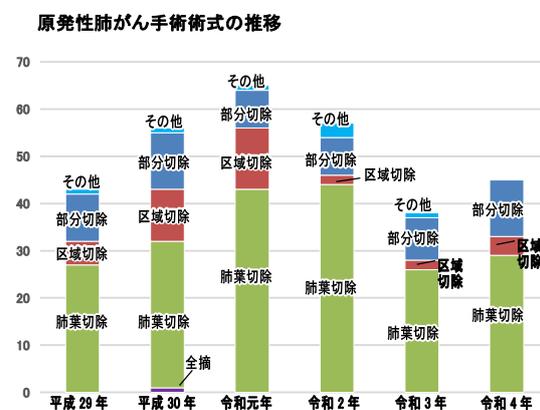
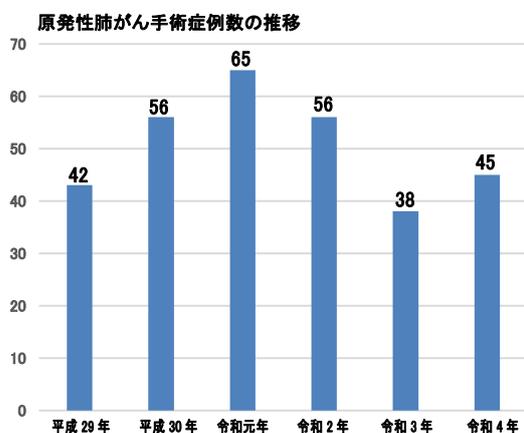
呼吸器腫瘍センターとしての役割は、患者さまの病状に応じた最善の治療の提供です。

症状によっては、抗がん剤治療や放射線治療が必要となることもあります。近年注目されているがん免疫治療は高い治療効果が期待できる治療法です。このがん免疫治療も年々新しい治療法が導入され、さらに高い治療効果が報告されています。そのため、最初の治療として手術治療以外の治療法を提案することがあります。もちろん、治療方針は患者さまやご家族の意見や希望を尊重して、話し合いで決定されます。

その他に、当科では中国・四国地区や全国レベルの臨床試験に参加していますので、臨床試験への参加をお願いすることがあります。臨床試験への参加は、当院で医療レベル向上において重要な意味を持っています。基本的治療方針である「患者さまが受けたい治療施設となれるように、最良治療の提供」が実現できるように、臨床・研究において日々精進しております。本年もよろしくお願いたします。

[呼吸器外科の手術症例数推移]

| 年 | 平成 29 年 | 平成 30 年 | 令和元年 | 令和 2 年 | 令和 3 年 | 令和 4 年 |
|---------------|---------|---------|------|--------|--------|--------|
| 全身麻酔手術症例数 | 86 | 95 | 105 | 96 | 73 | 94 |
| 原発性肺がん手術術式の推移 | 42 | 56 | 65 | 56 | 38 | 45 |



小児外科

当科は常勤医 1 名体制であり、手術は、九州大学病院小児外科からの応援医師と共に行っております。今年、新型コロナウイルス感染症の影響を最も大きく受けた 1 年であり、一定期間の病棟閉鎖も相まって、年間手術件数は 24 例と大幅に減少しました。そのため、緊急入院が必要な際には、他病棟スタッフのお力添えをいただくこととなりました。また、手術日には小児科非常勤医師のバックアップもいただき、何とか無事に小児外科診療を維持することができました。

令和 5 年度より小児科の完全閉鎖に伴い、当科は外来診療のみとなります。手術が必要な際には、近隣の小児外科施設と密に連携を行い、子供たちが適切な医療を受けられるよう努力していきたいと思っております。

[小児外科の外来患者数] (令和 4 年 1 月～12 月)

新患：72 名 再来：260 名 計 332 名 (15 歳以下患者)

[小児外科の入院症例] (令和 4 年 1 月～12 月)

男：19 名 女：8 名 計 27 名

| | | | |
|-----------|----|-----|---|
| 鼠径ヘルニア | 10 | 包茎 | 1 |
| 陰嚢水腫・精索水腫 | 2 | 虫垂炎 | 1 |
| 臍ヘルニア | 3 | 腸閉塞 | 1 |
| 停留精巣 | 7 | その他 | 2 |

外科全体の週間予定に沿って

| | |
|-------|---|
| 月・木曜日 | 術後カンファレンスにて、内視鏡手術ビデオを編集したものを全医師で検討し、医療安全の面や内視鏡外科技術医認定資格取得に向けて研鑽しています。 |
| 火曜日 | 診療科・部門横断的にカンサーボードを行い、患者さま中心にがん治療チームとして最適な治療方針を決定しています。 |
| 水曜日 | 朝、化学療法カンファレンスにてその週の化学療法件数を報告し、レジメンの変更の際は個別の症例の紹介を行っています。 午後は外科・呼吸器外科の総回診後、退院支援スタッフカンファレンスを看護師、MSW（医療ソーシャルワーカー）や理学療法士とを行い、患者さまの継ぎ目無い（Seamless）退院や転院を図っています。 |
| 金曜日 | 抄読会で最新文献から自己研鑽と全医師への還元を行っています。また緩和ケアラウンドとチーム会議にて症例検討を行っています。 |
| 随時 | 標準医療を忌避する例や終末期の倫理的な問題について臨床倫理委員会で検討しています。また研究課題については、文部科学省・厚生労働省ガイドラインに従い、倫理研究委員会で審議を受けています。 |

外科と関連科の医師と資格など

令和4（2022）年12月現在

| | |
|-------|--|
| 田中 雅夫 | 理事長・院長 日本膵臓学会名誉理事長、日本外科学会・日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会監事、アジアオセアニア膵臓学会プレジデント 日本外科学会外科専門医・指導医・認定医、日本消化器病学会消化器病専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医 |
| 大谷 和広 | 消化器外科部長 日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能専門医、日本肝臓学会肝臓専門医、日本外科学会外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医、日本胆道学会認定指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医 |
| 宮竹 英志 | 外科医長 日本外科学会外科専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医（消化器・一般外科） |
| 萱島 理 | 外科医長 日本外科学会外科専門医 日本消化器外科学会消化器外科専門医・消化器がん外科治療認定医 |
| 川地 眸 | 外科医師・乳腺外科医師 日本外科学会外科専門医、日本乳癌学会乳腺認定医、日本がん治療認定 |

| | |
|-------|---|
| | 医機構がん治療認定医、日本乳がん検診制度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定 |
| 富原 一貴 | 外科医師 |

<呼吸器外科>

| | |
|-------|---|
| 吉田 順一 | 副院長 日本胸部外科学会呼吸器外科専門医、日本感染症学会感染症専門医・指導医、日本外科学会外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医、日本化学療法学会抗菌化学療法指導医、ICD（インフュクションコントロールドクター） |
| 井上 政昭 | 呼吸器外科部長 日本外科学会外科専門医、日本胸部外科学会呼吸器外科専門医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医 |
| 名部 裕介 | 呼吸器外科医長 日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医、日本外科学会外科専門医 |
| 上田 彩加 | 呼吸器外科医師 |

<救急科>

| | |
|-------|---|
| 中原 千尋 | 救急科部長 日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器外科専門医・消化器がん外科治療認定医 |
|-------|---|

<小児外科>

| | |
|-------|--------|
| 山口 修輝 | 小児外科医師 |
|-------|--------|

<緩和ケア内科>

| | |
|-------|---|
| 牧野 一郎 | 副院長・緩和ケア内科部長 日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本肝胆膵外科学会本胆膵外科名誉指導医、日本緩和医療学会緩和医療認定医 |
|-------|---|

外科全体の年間手術症例数

令和4年（2022年1月～12月）

| | | | 開腹 開胸 | 鏡視下 |
|---------------|--------|-------------------|----------|-----|
| 消化管及び 腹部内臓 | 食道 | 食道切除再建術 | 0 | 0 |
| | | 食道（粘膜下）腫瘍摘出術 | 0 | 0 |
| | | その他の手術 | 0 | 0 |
| | | （上記のうち）食道がん切除手術総数 | 0 | 0 |
| | 胃・十二指腸 | 胃全摘術 | 7 | 2 |
| | | 幽門側胃切除術 | 5 | 7 |
| | | 噴門側胃切除術 | 0 | 1 |

| | | | | |
|--------------------|------------------------|-------------------|-------|----|
| | | 胃部分切除術 | 1 | 2 |
| | | その他の手術 | 6 | 1 |
| | | (上記のうち) 胃がん切除手術総数 | 11 | 10 |
| | 小腸・虫垂・結腸 | 小腸切除・狭窄形成術 | 6 | 1 |
| | | 結腸切除術 | 9 | 48 |
| | | 虫垂炎手術 | 0 | 16 |
| | | 腸閉塞に対する手術 | 1 | 1 |
| | | 人工肛門造設・閉鎖術 | 15 | 0 |
| | | その他の手術 | 0 | 0 |
| (上記のうち) 結腸がん切除手術総数 | | 1 | 44 | |
| 直腸・肛門 | | 直腸・肛門 | 直腸切除術 | 0 |
| | 直腸切断術 | | 0 | 3 |
| | 大腸(亜)全摘術 | | 0 | 0 |
| | 肛門疾患手術 | | 1 | 0 |
| | その他の手術 | | 2 | 0 |
| | (上記のうち) 直腸がん切除手術総数 | | 0 | 10 |
| | 肝・胆・膵・脾 | 肝切除術 | 7 | 3 |
| | | 胆のう摘出術 | 0 | 35 |
| | | 総胆管結石症に対する手術 | 0 | 0 |
| | | 膵頭十二指腸切除術 | 1 | 0 |
| | | 膵頭十二指腸切除術以外の膵切除術 | 4 | 7 |
| | | 脾臓摘出術 | 0 | 0 |
| | | その他の手術 | 1 | 1 |
| | (上記のうち) 肝・胆道・膵がん切除手術総数 | 11 | 7 | |
| | 腹腔・腹膜・後腹膜 | ヘルニア手術 | 72 | 13 |
| | | その他の手術 | 8 | 0 |
| | 乳腺 | 乳房切除 | 8 | 0 |
| | | 乳房温存手術 | 6 | 0 |
| その他の手術 | | 3 | 1 | |
| (上記のうち) 乳がん切除手術総数 | | 12 | 0 | |
| 呼吸器・縦隔 | 肺・気管・気管支 | 肺切除術 | 6 | 46 |
| | | その他の肺・気管・気管支の手術 | 9 | 27 |
| | | (上記のうち) 肺がん切除手術総数 | 6 | 46 |
| | 縦隔 | 胸腺摘除術 | 0 | 0 |
| | | 縦隔腫瘍手術 | 3 | 4 |
| | | その他の手術 | 0 | 0 |
| 頭頸部・内分泌 | 甲状腺疾患に対する手術 | 0 | 0 | |
| | 副甲状腺疾患に対する手術 | 0 | 0 | |

| | | | |
|------|-----------|----|---|
| | その他の手術 | 2 | 0 |
| 末梢血管 | 静脈瘤に対する手術 | 0 | 0 |
| | その他の手術 | 38 | 0 |
| 外傷 | | 6 | 0 |

【業績集】

<発表>

| 開催年月日 | 演題名 | 演者 | 共同演者 | 学会名 | 場所 |
|---------------|--|--------------------|--------------|---|----------------|
| 2022.5.20-21 | 縦隔浸潤が疑われ術前治療を行い完全切除が可能であった2例 | 井上政昭 | | 第39回日本呼吸器外科学会 学術集会 | Web開催 (東京都) |
| 2022.5.20-21 | Pembrolizumab投与後のリンパ節転移に対してリンパ節切除を施行した非小細胞肺癌の2例 | 名部裕介 | | 第39回日本呼吸器外科学会 学術集会 | Web開催 (東京都) |
| 2022.5.20-21 | 縦隔型右下葉枝A7およびA7+8の破格を伴った右肺下葉切除の2例 | 橋本鉄平 ¹⁾ | | 第39回日本呼吸器外科学会 学術集会 | Web開催 (東京都) |
| 2022.5.26 | 感染対策向上加算 クリニックから見た新たな加算と任務 | 吉田順一 | | 下関市立市民病院地域医療研修会 | 下関市立市民病院 |
| 2022.7.7 | 感染症セミナー「有事」とは？そのPDCAサイクルとは？ | [講師] 吉田順一 | | 下関市立市民病院地域医療研修会 | 下関市立市民病院 |
| 2022.8.22 | 周術期治療の新たな夜明け～IMpower010を中心に～ | [座長] 井上政昭 | | 中外Eセミナー On lung cancer in SHIMONOSEKI | |
| 2022.9.8 | 感染症セミナー 抗菌薬のパンデミック・スチュワードシップ論文紹介 | [講師] 吉田順一 | | 下関市立市民病院地域医療研修会 | 下関市立市民病院 |
| 2022.10.26-28 | Sotrovimab use in Japanese inpatients with COVID-19: Post-infusion adverse events and efficacy | 吉田順一 | 大谷和広 野田裕剛 | 第71回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第69回日本化学療法学会総会東日本支部総会合同学会 | 札幌市 |
| 2022.11.5 | 治療に難渋した特発性乳糜胸の一例 | 井上政昭 | 名部裕介 上田彩加 | 第10回福岡胸部外科疾患 | 福岡市 |

| | | | | | |
|-------------|---------------------------------|------------------------------|----------------------|---------------------|---------------|
| | | | 吉田順一 | 研究会 | |
| 2022.11.17 | がん免疫治療の Up To Date | [座長] 宮竹英志 [講演] 井上政昭 | | 下関市立市民病院化学療法セミナー | 下関市立市民病院 |
| 2022.12.1-3 | 免疫チェックポイント阻害薬治療後に手術治療を施行した症例の検討 | 井上政昭 | 名部裕介 上田彩加 吉田順一 | 第63回日本肺癌学会学術集会 | 福岡市 |
| 2022.12.1-3 | 高悪性度胎児型肺腺癌の2切除例 | 名部裕介 | 井上政昭 上田彩加 吉田順一 | 第63回日本肺癌学会学術集会 | 福岡市 |
| 2022.12.1-3 | 縦隔高分化型脂肪肉腫の1切除例 | 上田彩加 | 名部裕介 井上政昭 吉田順一 | 第63回日本肺癌学会学術集会 | 福岡市 |
| 2022.12.16 | 学校検診にて発見された小児結核の1例 | 上田彩加 | 名部裕介 井上政昭 吉田順一 | 第67回日本呼吸器学会中国・四国地方会 | 岡山コンベンションセンター |

D...令和3年度在籍

<論文>

| 発表年 | 表題 | 著書等 | 共同著者等 | 雑誌・巻・ページ |
|------|---|-----------------|---|---|
| 2022 | Casirivimab-imdevimab neutralizing SARS-CoV-2:post-infusion clinical events and their risk factors | Junichi Yoshida | Tetsuro Tamura Kazuhiro Otani Tetsuya Kikuchi Akiko Mataga Takako Ueno And Masao Tanaka | Jornal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 2022 ; 8 (1) : 1-5 |
| 2022 | Survey on the current status of the indecation and implementation protocols for bile replacement in patients with external biliary drainage with special reference to infection control | | Junichi Yoshida | Surgery Today 2022; Pubrished online |
| 2022 | 麻疹様の皮疹が体幹・四肢に生じ、鑑別が困難であったCOVID-19の1例 | 吉田順一 | 内田寛 田村徹郎 ²⁾ 大谷和広 菊池哲也 白石研一郎 | 臨床と研究 99 (2) : 104-107 |

| | | | | |
|------|--|-----------------|---|--|
| | | | 田中雅夫 | |
| 2022 | (座談会) 新型コロナウイルスと働き方改革 Part.2 | 吉田順一 | | 勤務医ニュース (28) : 1-14 |
| 2022 | Does the Pandemic Influenza Antimicrobial Stewardship? A Historical Control Study before and after Severe Acute Respiratory Syndrome Coronavirus-2 Infection Care in a Teaching Hospital | Junichi Yoshida | Tetsuya Kikuchi Akiko Mataga Takako Ueno Hirotaka Noda Kazuhiro Otani Masao Tanaka | Journal of Clinical Trials 2022 ; 22 (902) |
| 2022 | Sotrovimab use in Japanese inpatients with COVID-19: post-infusion adverse events | Junichi Yoshida | Masao Tanaka 他病院 1 名 | BMC Infectious Diseases |

2)…令和3年度在籍